

〈実践報告〉

2つの大学での映画を活用した 英詩入門授業の試み

森 永 弘 司

Abstract

This practical report is a record of my attempts to utilize films to introduce English poetry to university students in two classes at different universities. Teaching English poetry offers the following four educational advantages which I have found through questionnaires and research: it enhances students' motivation to read, it is effective in helping students to cultivate their understanding of English and American culture, it improves receptive vocabulary and is easy to implement into a collaborative learning lesson. By examining the data from assignments and questionnaires about my lectures, I found that most of the participants enjoyed the classes and felt that they had gained some familiarity with English poetry.

1. はじめに

英米では幼児から階級の隔てなくマザー・グースに代表されるナースリータイムに親しんでいて、マザー・グースは聖書やシェークスピアと並んで文化的教養の基礎となっている。またイギリスには長い伝統を誇る桂冠詩人の制度があり、またアメリカでもケネディ（John F. Kennedy, 1917-1963）やクリントン（Bill Clinton, 1946-）の大統領の就任式にロバート・フロスト（Robert Frost, 1874-1963）やマヤ・アンジェロウ（Maya Angelou, 1928-2014）という当時のアメリカを代表する詩人が招かれて詩を朗読したことが示しているように、詩が高く評価されている。一般に英文学の精華は詩にあ

るといわれており、英米の文学のみならず、英米の文化を理解する上でも詩の知識は非常に重要である。筆者は過去に20作の英詩が登場する映画を収録したテキスト *The Poetry of Film* (金星堂, 2005) を使用して、映画を活用した英詩入門の指導を2つの大学でおこなった。授業を実施したのは、定員45名の2年生以上の全ての学部の受講生が履修できる「イングリッシュ・ワークショップ」(以下、「ワークショップ」と略す) という一般選択必修科目と、定員10名の経済学部の2年生以上の受講生が履修できる「英語演習」(以下、「演習」と略す) という専門選択科目である。「ワークショップ」と「演習」の2つの授業の実施時期に関しては10年以上の時間差があるが、多人数のクラスと少人数のクラスでの授業実践効果の差も考察の対象としたいので、2つの英詩入門の授業の実践報告をおこなうこととする。

2. 受講生

1. 「ワークショップ」の受講生は、同志社大学の2年生以上の受講生82名で所属学部は神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、文化情報学部、工学部と多岐にわたる。今回の実践報告では2006年度と2007年度に担当した2クラスを対象とした。
2. 「演習」の受講生は、滋賀大学の経済学部の2年生以上の受講生19名である。今回の実践報告では2018年度に担当した2クラスを対象とした。

3. 授業開始前のアンケート調査

両クラスともに最初の授業時に、好きな映画と好きな詩人を答えてもらうアンケートを実施した。映画に関しては、以下の通りである。

3.1 好きな映画に関して

「ワークショップ」のクラスでの好きな映画に関しては68作品あげられていた。「演習」のクラスでの好きな映画に関しては29作品あげられていた。両大学共に受講生は映画に関しては興味と関心が高く、映画好きが多いことがこの調査で判明した。

3.2 好きな詩人に関して

「ワークショップ」のクラスでの好きな詩人に関しては、谷川俊太郎（2名）、寺山修司、相田みつを、ヘルマン・ヘッセ、ゲーテ、バイロン（各1名）があげられていた。「演習」のクラスでの好きな詩人としては、シェークスピア（4名）、ゲーテ、宮沢賢治、相田みつを（各2名）、ワーズワース、シェリー、谷川俊太郎、中原中也、与謝野晶子（歌人）、JRの京都産業大学の広告に詩を載せているキムという人（各1名）があげられていた。「ワークショップ」のクラスと比較して、「演習」のクラスを受講生の方が詩を読んでいる受講生が多いと推察できる。とはいえ、あげられている詩人は、ほとんどが中学や高校の現代国語の教科書にその詩が掲載されている詩人だと思われる。

4. 使用テキスト

使用したテキストは、金星堂刊行の *The Poetry of Film*（2005）である。掲載されている20本の映画のタイトル、映画で使われている英詩の題名及びその詩の著者は次の通りである。

	映画のタイトル	引用されている英詩の題名	英詩の著者
1	<i>Roman Holiday</i>	“Arethusa”	P. B. Shelley
2	<i>Orland</i>	<i>The Faerie Queene</i> , Book 2, canto 12	Edmund Spencer

3	<i>Sense and Sensibility</i>	"Sonnet 116"	William Shakespeare
4	<i>Mrs. Dalloway</i>	<i>Cymbeline</i> , Act IV, scene II, 258-281	William Shakespeare
5	<i>Dead Poets Society</i>	"To the Virgins, Make Much of Time"	Robert Herrick
6	<i>The Serpent's Kiss</i>	"The Garden," "To His Coy Mistress"	Andrew Marvell
7	<i>Dead Man</i>	"Auguries of Innocence"	William Blake
8	<i>Splendor in the Grass</i>	"Ode on Intimation of Immortality from Recollections of Early Childhood"	William Wordsworth
9	<i>Brief Encounter</i>	"When I have fears that I may cease to be"	John Keats
10	<i>Bridget Jones's Diary</i>	"To Autumn"	John Keats
11	<i>Waterloo Bridge</i>	"My Lost Youth"	H. W. Longfellow
12	<i>Anne of Green Gables</i>	"The Lady of Shalott"	Alfred Tennyson
13	<i>Sophie's Choice</i>	"Ample make this Bed-"	Emily Dickinson
14	<i>The Bridges of Madison County</i>	"The Song of Wandering Aengus"	William Butler Yeats
15	<i>Memphis Belle</i>	"An Irish Airman foresees his Death"	William Butler Yeats
16	<i>Days of Wine and Roses</i>	"Vitae summa brevis spem nos vetat Incohare longam"	Ernest Dowson
17	<i>Telefon</i>	"Stopping by Woods on a Snowy Evening"	Robert Frost
18	<i>Apocalypse Now</i>	"The Hollow Men"	T. S. Eliot
19	<i>Four Weddings and a Funeral</i>	"Funeral Blues"	W. H. Auden
20	<i>The Graduate</i>	"The Sound of Silence"	Paul Simon

5. 授業方法と成績評価

5.1 「ワークショップ」のクラスでの授業方法

このクラスは通年のクラスなので、春学期にテキストに掲載されている映画20作のうち前半に掲載されている10作を、秋学期に後半の10作を扱った。授業の1週目に、『イギリスの詩を読んでみよう』（小林，2007）を使用して、英詩を読むための基礎知識である英詩の韻律と定型（iambus, trochee, tetrameter, pentameter 等）や頭韻や脚韻、技法に関しては倒置、リフレイン、擬人法、比喩、引喩に関して説明をおこなった。2週目以降の授業では、最初にテキストの Pre-Reading と Reading のセクションの担当の受講生を指名し説明および訳読をさせた。Exercise A と B は平易なのでとばした。その後で事前に指名しておいた3～5名から構成されるグループの受講生に1回の授業で扱う映画1作品と英詩1篇に関して調べてきたことを資料（B4で2枚程度）として配布させ、30分程度のプレゼンテーションをおこなわせた。それが終わると、プレゼンテーションを聞いていた受講生からの質問やコメントを受け付けた。毎回授業の補助資料として、松浦暢編著『映画で英詩入門』（2004）及び『英詩と映画』（2003）の授業に参考になる部分を配布した。授業時間に余裕がある時には、英国の代表的な詩人の生涯と詩を映像で解説した『英詩紀行』（2006）というDVDを視聴してもらった。

5.2 「演習」のクラスでの授業方法

最初の授業は「英語演習」に興味・関心を抱いている受講生に対する授業内容や授業方法を説明するためのオリエンテーションをおこなった。というのは、この時点では、まだ正規の受講者は決定していないからである。第2週目に受講者が決定したので授業を開始した。最初に「ワークショップ」のクラスと同様に、英詩の韻律と定型（iambus, trochee, tetrameter,

pentameter 等) や頭韻や脚韻、技法に関しては倒置、リフレイン、擬人法、比喩、引喩に関して説明をおこなった。その後受講生のプレゼンテーションを主体とする授業を実施した。プレゼンテーション担当の受講生には、Exercise A の解答、Reading の和訳、映画、詩、詩人の説明をB4の用紙2枚に纏めたものを配布することを義務づけた。プレゼンテーションの時間は、25~30分とした。「ワークショップ」の授業と同様に毎回授業の補助資料として、松浦暢編著『映画で英詩入門』及び『英詩と映画』の授業に参考になる部分を配布した。プレゼンテーションの後は、担当者が補足説明等をおこなった。

5.3 「ワークショップ」のクラスの成績評価基準

① 出席点 20点 (1回の欠席で-3点とする。遅刻は3回で1回の欠席として扱う) ② グループでのプレゼンテーション 40点 (1グループに2回の発表を義務づけた。1回の発表を20点満点とした。得点は発表者以外のグループの評価10点、担当者の評価10点とした。またプレゼンの評価用紙には、プレゼンテーションの良かった点、悪かった点及び任意としてプレゼンテーション改善のためのアドバイスの記入も義務づけた) ③ レポート課題 20% (課題及び執筆要項は、授業時にプリントを配布して説明した) ④ 期末テスト20点 (定期テストの授業時に実施した)

5.4 「演習」のクラスの成績評価基準

① 出席点 20点 (1回の欠席で-3点とする。遅刻は3回で1回の欠席として扱う) ② プレゼンテーション 40点 (受講生に2回プレゼンテーションを義務づけた。1回の発表を20点満点とした。得点は発表者以外の受講生の評価10点、担当者の評価10点とした。またプレゼンテーションの評価用紙には、プレゼンテーションの良かった点、悪かった点及び任意としてプレゼンテーション改善のためのアドバイスの記入も義務づけた) ③ レポー

ト課題 20点（課題及び執筆要項は、授業時にプリントを配布して説明した）

④ 授業評価に関する記述アンケート 20点（定期テストの際に実施した）

6. 映画に関するアンケート結果

感銘を受けた、或いは視聴したい映画（複数回答可）に関するアンケートの結果は、以下の通りである。上位4作品の名前を挙げる。（ ）の中の数字は人数を示す。

順位	「ワークショップ」(N=82)	「演習」(N=19)
1	<i>Roman Holiday</i> (34)	<i>Roman Holiday</i> (7)
2 (2)	<i>Bridget Jones's Diary</i> (24)	<i>Dead Man</i> (5)
3 (2)	<i>The Graduate</i> (17)	<i>Anne of Green Gables</i> (5)
4 (2)	<i>Dead Poets Society</i> (13)	<i>Apocalypse Now</i> (5)

「ワークショップ」では、授業内での映画の視聴はおこなわなかった。「演習」の2クラスの内1クラスは、1位が *Roman Holiday* (5)、2位が *Dead Man* (4) であったので、この2作品を授業で視聴した。もう1つのクラスでは、1位が *Anne of Green Gables* (5)、2位が *Apocalypse Now* (4) であったが、両作共に3時間を超える大作であったので、3位の *Roman Holiday* (3) と *Dead Poets Society* (3) を視聴した。

7. レポート課題の結果

7.1 「ワークショップ」のクラスのレポート課題

春学期のレポートでは、授業で取り上げた10本の映画の中で興味を持った作品を鑑賞し、自由に論じさせる課題と授業で取り上げた英詩を書いた詩人のテキストに掲載されている以外の詩を選んで、できるだけ詳細に論じる課題

を与えた。分量的にはA4で2枚以上書いて提出させることを義務付けた。秋学期のレポートでは、通年の授業で扱った20本の映画の中から受講生に最も大きな感銘を与えた映画を1作選ばせ、その作品に感銘を受けた理由と最も感動した科白をできるだけ詳細に論じるレポートを提出させた。分量は春学期のレポート同様、A4用紙で2枚以上とした。

7.2 「演習」のクラスのレポート課題

テキストで扱った20本の映画の中で、視聴してみたいと思った映画を最低でも2本(上限はなし)を選んで、視聴した感想を書かせるレポートを課した。分量はA4用紙で2枚以上とした。

7.3 「ワークショップ」と「演習」のレポート課題で扱われた映画

上位4作を掲載する。()は人数を示す。

順位	「ワークショップ」の春学期	「演習」
1	<i>Roman Holiday</i> (34)	<i>Roman Holiday</i> (11)
2	<i>Bridget Jones's Diary</i> (24)	<i>Dead Man</i> (7)
3	<i>Dead Poets Society</i> (13)	<i>Dead Poets Society</i> (5)
4	<i>Orlando</i> (4)	<i>Bridget Jones's Diary</i> , <i>Anne of Green Gables</i> , <i>The Graduate</i> (3)

7.4 「ワークショップ」で取り上げられた英詩とその作者

順位	英詩	作者
1	"Ode to the West Wind" (11)	P. B. Shelly
2	"Music" (7)	P. B. Shelly
3	"La Bell Dame sans Merci" (6)	John Keats
4	"Sonnet 18", "The Watch" (3)	William Shakespeare, Robert Herrick

5	“Romeo and Juliet,” “On First Looking into Chapman’s Homer,” “Ode on a Grecian Urn,” “Ode to a Nightingale,” “Angel,” “Lily”	William Shakespeare, John Keats, John Keats, John Keats, William Blake, William Blake
---	--	---

7.5 「ワークショップ」のクラスの秋学期の課題レポートで取り上げられた映画

2人以上の受講生が取り上げた映画を示す。() は人数を示す。

順位	作品
1	<i>Roman Holiday</i> (22)
2	<i>The Graduate</i> (17)
3	<i>Bridget Jones’s Diary</i> (11)
3	<i>The Bridges of Madison County</i> (〃)
5	<i>Waterloo Bridge</i> (4)
5	<i>Days of Wine and Roses</i> (〃)
5	<i>Memphis Belle</i> (〃)
8	<i>Dead Poets Society</i> (2)
8	<i>Anne of Green Gables</i> (〃)
8	<i>Four Weddings and a Funeral</i> (〃)

7.6 「ワークショップ」で取り上げられた映画についての担当者のコメント

Roman Holiday、*Bridget Jones’s Diary*、*Sense and Sensibility*、*Splendor in the Grass* 等の恋愛映画の人气が高く、教育問題を扱った *Dead Poet’s Society* も比較的多くの受講生が取り上げていた。William Blake の詩が使われている *Dead Man* が、かなり難解な作品であるにもかかわらず取り上げられているのは、人気俳優の Johnny Depp が主演しているためだと推測される。春学期のレポート同様、*Roman Holiday*、*The Graduate*、*Bridget*

Jones's Diary、*The Bridges of Madison County*、*Waterloo Bridge*、*Four Weddings and a Funeral* のような恋愛がテーマとなる作品が好んで取り上げられていた。また *Memphis Belle* のような戦争を主題とする映画、アルコール中毒による家庭崩壊を扱った *Days of Wine and Roses* も各々4名の受講生が取り上げていた。

7.7 「演習」のクラスでのレポート課題の映画についての受講生のコメント

1. *Roman Holiday*

「喜劇的要素と悲劇的要素のバランスが素晴らしく、名作である所以がよく理解できた」、「オードリー・ヘップバーンが、チャーミングでとても可愛い」、「ローマの名所がいろいろと紹介されていて、興味を持てた」、「最後の場面がとても感動的であった」「当時の5,000ドルを現在の物価指数等を考慮して現在の日本円の価値になおすと約810万円の価値があるにもかかわらず、大スクープを諦めたジョーを素晴らしいと思った」

2. *Dead Man*

「音楽が効果的に使用されている」、「モノクロが使用されていることが、この映画の神秘感を高めているように思う」、「死後の世界について考えさせる映画である」、「今を時めくジョニー・デップ主演の映画なので観てみたいと思った」、「ストーリーが冗漫だとおもった」、「テーマが分かりにくい作品だと思った」

3. *Dead Poet's Society*

「最後のクライマックスの場面がとても感動的で、泣きそうになった、鳥肌が立った」、「最後の場面で、机の上に立つ生徒と立たない生徒がいたのは、この映画をリアルなものにしている」「キーティング先生のユニークな教授法に感銘を受けた。彼のような先生に習ってみたい」、「自由主義的な教育の長所と短所が描かれているように思った」

4. *The Graduate*

「最後の有名な教会で花嫁を略奪する場面は感動した」、「サイモンとガーファンクルの名曲『サウンド・オブ・サイレンス』等のBGMがよかった」、「人妻と関係を持ったベンジャミンにも童貞であるベンジャミンを誘惑したロビンソン夫人にも不快感を抱いた」

5. *Anne of Green Gables*

「アン・シャーリーの性格がとても魅力的である」、「アンの生きる姿勢にとっても強いものを感じ、コンプレックスだけを募らせてきた自分を恥ずかしく思った」、「登場人物のセリフの口調がとても詩的な表現が多いと思った」、「映画のテンポが少し早かったために、感情移入が余り起こらなかった」

6. *Bridget Jones's Diary*

「同性愛の問題や高齢出産の問題のような今日の社会的な問題もうまく織り込まれていた」、「恋愛に対して面倒だと思う若者に、この映画を観て欲しいと思った」、「ブリジッドの恋愛に対する姿勢や努力には、見習うべきものがたくさんあると思う」、「恋愛の素晴らしさを感じ取れる映画だと思う」、「英国紳士の上品さと下世話さが伝わってくる映画である」、「男が抱く女の子の幻想をぶち壊す映画である」、「同じ恋愛映画である *Roman Holiday* と比較すると、*Roman Holiday*の方がスゴイが、*Bridget Jones's Diary*の方が圧倒的にスキな映画である」

7.8 「ワークショップ」春学期で取り上げられた詩人についての担当者のコメント

Shelly や Keats の叙情性が強い作品が好んで取り上げられているのは、感情移入しやすいことと作品の背景的知識なしに読める点で、取り付きやすかったためだと思われる。また Shakespeare の *Romeo and Juliet* や Sonnet18 が取り上げられているのは、受講生の恋愛に対する関心を反映したものと解釈できる。

7.9 「ワークショップ」秋学期で取り上げられた最も感銘を受けたセリフ

作品と感銘を受けた科白と人数を記す。科白の引用に関しては、日本語、英語ともに可とした。*Memphis Belle*、*Anne of Green Gables*、*Four Weddings and a Funeral* 以外の映画では、複数の受講生が取り上げた科白のみ掲載した。

Roman Holiday

“I will cherish my visit here in memory, as long as I live” (9名)
 「人生は必ずしも思い通りになるとは限らない」(3名)「王女の信頼が裏切られることはないでしょう」(3名)「あの角を曲がったら、アナタはもう帰って下さい。ここで帰ると約束してください」(2名)「お別れだけど、言葉が見つからない」
 「言葉はいらない」(2名)「台所のある家に引っ越そう」(2名)ポケットに手を突っ込み会場を一人去っていく、ジョーの声なき雄弁(2名)

The Graduate

ベンの「エレーン！エレーン！」という叫びに応えたエレーンの「ベン！」という叫び(8名)“Sound of Silence”の歌詞(7名)結婚式場に乱入したベンの「エレーン」という叫び(4名)ラストのバスの中でベンとエレーンが見つめあうシーン(3名)

Bridget Jones's Diary

マークがブリジットに告白した時“I like you very much - just as you are”(6名)
 マークがブリジットに言った“I was just buying you a new one. Time to make a new start, perhaps”(4名)

The Bridges of Madison County

キンケードの「これは初めて口にする言葉だ。この先も言うことない。この愛は生涯に一度の確かな愛だ」(6名)

Waterloo Bridge

ロングフェローの詩「失われし青春」の中の一節「わらべの心は風の心よ、若き想いは 遠き 遠き想いよ」(2名)

Days of Wine and Roses

ダウソンの詩の一節「はかなき酒とバラの日々 二人の道はつかの間、霧の立ち込める夢より現れ 夢の中に閉ざされる」(3名)

<p><i>Memphis Belle</i> 劇中に流れる「ダニー・ボーイ」(1名) 全員で歌う「アメージング・グレイス」(1名) 劇中で読まれるイェーツの詩“An Irish Airman foresees his Death”(1名) 航空士の「死んでたまるか! 生きるんだ!」(1名)</p>
<p><i>Dead Poet's Society</i> ラストシーンでキーティングが教室を去るとき、生徒たちが机の上立って朗誦するホイットマンの詩“Captain, my captain”(2名)</p>
<p><i>Anne of Green Gables</i> アン「悪い人と結婚して、いい人にしていくの」(1名) アン「もし、私が男の子だったら、いま、とても役にたつて、いろいろなことでマッシュー小父さんに楽させてあげられたのにね」(1名)</p>
<p><i>Four Weddings and a Funeral</i> 劇中で葬儀の時に弔辞として読まれるオーデンの詩“Funeral Blues”(1名) チャールズのもとへ雨の中ずぶ濡れになりながらやって来たキャリーに言うチャールズのプロポーズの言葉「教会に立った時 初めて気づいた 誰を愛してるかにそれは隣に 立ってた女性でなく 今 僕の前にいる雨に濡れて」(1名)</p>

受講生が選んだセリフに関しての考察を列举してみる。1. 取り上げられた科白の大多数が、心情（特に恋愛感情）が率直に吐露されたと感じられる言葉である。2. 困難な状況の下での恋愛に共感する傾向がある。3. 直接的な愛情表現の言葉と同時に、相手を思いやる言葉に感銘を受けた受講生も多い。4. 今現在の自分が置かれている境遇と重ね合わせて、共感を表明した受講生も比較的多くいた。5. 授業で映画にでてくる英詩をかなり詳しく分析した結果かもしれないが、英詩に感銘を受けた受講生も予想以上に多かった。これは、英詩の韻律と取りあげられている英詩が喚情的な要素が強い詩が多かったためだと思われる。

8. 授業についてのアンケート調査

8.1 「ワークショップ」の秋学期のアンケート調査

秋学期の最後の授業時に、受講生75名に以下の質問項目の無記名アンケートを実施し、①から⑤の中で当てはまるものに丸を付けてもらった。

(1) 現在の大学の英語教育は TOEIC や TOEFL のような実用や資格に結びついた英語が主流になってきていますが、英詩のような非実用的な英語を学ぶ意義はあると思いますか。

- ① 非常にある ② 少しはある ③ どちらとも言えない
④ ほとんど無い ⑤ 全く無い

(2) 大学の英語教育で、実用・資格英語に結び付いた英語だけではなく、教養を深めるような種類の英語も教えるべきだと思いますか。

- ① 強く思う ② 少しはそう思う ③ どちらとも言えない
④ 余り思わない ⑤ 全く思わない

(3) この授業は自分の知識や教養を深めたり、視野を広げたりする上で、プラスになったと思いますか。

- ① 強く思う ② 少しはそう思う ③ どちらとも言えない
④ 余り思わない ⑤ 全く思わない

(4) この授業を受講してよかったと思うことがあれば、自由に書いてください。

アンケート結果

(1) ①非常にある	22名	②少しはある	31名
③どちらとも言えない	14名	④ほとんど無い	2名
⑤全く無い	2名		
(2) ①強く思う	26名	②少しはそう思う	33名
③どちらとも言えない	6名	④余り思わない	4名

⑤全く思わない	2名		
(3) ①強く思う	21名	②少しはそう思う	42名
③どちらとも言えない	8名	④余り思わない	4名
⑤全く思わない	1名		

授業の良かった点についてのコメント（ ）内の数字は人数を示す。

英詩についてのコメント：1. 英詩に興味・関心・親しみが湧いた。(10)
2. 教養を高めるうえで、役立った。(3) 3. 英詩に対する知識が増えた。
(2) 4. いろいろな英詩に触れることができて良かった。(2) 5. 好きな英詩
ができた。(1) 6. DVDの『英詩紀行』が良かった。(1)

映画についてのコメント：1. 映画に対する興味が湧いた。(5) 2. いろい
ろな映画を見ることができた。(5) 3. 今まで見たことのない「名作」とい
われる映画を見る機会を得た。(4) 4. オードリー・ヘップバーンのファン
になり、彼女の出演作品をほぼ全部見た。(1) 5. 「卒業」を見て、既成の価
値観でがんじがらめになっている自分がバカらしく思え、これから自分に素
直に生きてゆこうと思った。(1) 6. 映画はすばらしいと思った。(1) その
他のコメント：1. 楽しかった。(3) 2. リスニング力と語彙力が伸びた。
(2)

8.2 「演習」のクラスでのアンケート

滋賀大学では、受講者が10人を超えないクラスでは授業担当者の授業評価
は実施されていない。「英語演習」は今回初めて担当したクラスなので、こ
の授業の良かった点と改善点を知りたいと思ったので、以下の論題の定期テ
ストを実施した。

論題：この授業で学習したことやこの授業を受講して良かったこと、この授
業で改善して欲しいと思うことや実施して欲しいと思うことを箇条書きにし
てまとめて下さい。

定期テストの受験者は、18名であった。この授業で学習したことやこの授業を受講して良かったこと。()内の数字は人数を示す。

英詩についてのコメント：1. 英詩に対する興味を持つことができた。(11) 2. 英詩や英詩の表現を知ることができた。(10) 3. DVDを視聴することで、詩人の生い立ちや人生、時代背景を知ることができた。(6) 4. いろいろな英米の詩人を知ることができた。(4) 5. 映画の中で詩がどのような働きをしているか理解できた。DVDの英詩の朗読で、詩のリズムのよさが分かった。(3) 6. 詩は音としても楽しめることが分かった。海外(英米)の文化を知るために詩が必要であることが分かった。(2) 映画についてのコメント：1. 洋画に対する興味を持つことができた。(11) 2. 自分が知らない映画を見ることができた。(9) 3. 洋画を見るきっかけができた。(7) 4. 映画の見方が少し深くなった。映画の英語の音声とその字幕の日本語訳の違いに興味深かった。(1) プレゼンについてのコメント：1. プレゼンをおこなうことで、映画を詳しく知ることができた。(6) 2. プレゼンの後に、他の参加者からフィードバックをもらえるのがよかった。(4) 授業についてのコメント：1. 楽しい授業であった。(4) 2. 出席点が高い授業であったので、授業に出るモチベーションが湧いた。映画を担当者から借りることができたことはよかった。単位が取りやすいことがよかった。(1)

授業で改善して欲しいと思うことや実施して欲しいと思うこと：詩に関して：1. テキストに掲載されている詩に関して、その表現や味わい方に関してもう少し詳しく解説して欲しい。(6) 2. 簡単な詩を授業中に作るタスクを実施して欲しい。(3) 3. 英詩についての解説をもっと詳しくして欲しい。(2) 4. 教科書に載っている英詩の朗読を聴かせて欲しい。(2) 5. 日本の詩も読んでみたい。(2) 映画に関して：1. もう少し映画を見たかった。(4) 2. 自分が担当した映画を見るのに苦労したので、改善して欲しい。(1) プレゼンに関して：1. プレゼンの後に質疑応答の時間を設けて欲しい。(4) 2. プレゼンの評価用紙に、声の大きさ、発音、訳のわかり易さ、発表態度等の項

目を設けて欲しい。(3) 授業方法、レポート課題、テスト等に関して：(回答者は全て1名) グループやペアでのプレゼンを実施して欲しい。グループワークを導入して欲しい。小テストを実施して欲しい。投票で決めた映画をレポート課題にして、担当者が各受講生のレポートに関してコメントして欲しい。配布資料を増やして欲しい。映画視聴の際に、受講生がお菓子を持ち寄って、それをシェアすることで参加者同士が打ち解ける機会を作って欲しい。

9. 教育的示唆

上記のアンケート調査の結果から、多くの受講生がこの英詩入門の授業を楽しんで受講し、英詩に関する知識も深めてくれたことが分かった。しかしながら英詩に対する興味・関心を持つことが出来るようになった受講生の数は、「ワークショップ」のクラスでは受講生75名中11名で、「演習」のクラスでは18名中11名とその割合に大きな差が生じた。1回のアンケート調査で即断することには危険が伴うが、両クラスともにテキストは同じで授業の手順もほぼ同じであったので、**個人に対してきめ細かな指導ができる少人数のクラスの方が英詩に対する親密さを持たせる上では教育的効果が高い**といえるであろう。また大多数の学生が映画に対して興味・関心を持っているので、**英詩単独で教えるよりも映画も使用して英詩指導をおこなうことが非常に効果的であると断言できる**。また筆者が補助教材として使用した英国の代表的な詩人の生涯と詩を映像で解説した『英詩紀行』というDVDも非常に有用であった。英詩がほぼ必修になっている英文学科や選択科目で英詩を受講できる可能性のある外国語学部の英米語学科や国際教養学部(学科)以外の学部の受講生が対象なので、授業開始の最初の時期に、**英詩の韻律と定型(iambus, trochee, tetrameter, pentameter等)や頭韻や脚韻、技法に関しては倒置、リフレイン、擬人法、比喩、引喩に関して説明することが必要で**

あると思う。英詩の多くが英語の基本的リズムともいえるべき iambic pentameter (弱強五歩格) で書かれているため、**できるだけ多く英詩の朗読を聞かせる**ことも重要である。脚韻や頭韻を目で理解させることも重要であるが、脚韻や頭韻の音声面での効果を確認させるためにも英詩の朗読を聞かせることは肝要である。英詩に親しませるためには、**受講生にできるだけ多くの詩を読ませる**ことが効果的であると言えるが、その場合難解な詩や長編詩は避けるべきである。これまで述べたことが、教養課程の英語の授業で英詩入門の授業を実践してみたいと考えておられる先生の一助となれば幸いである。

謝 辞

2009年に「映画を通して英詩を教える授業の試み——三年間の授業実践を振り返って——」のタイトルで日英言語文化学会第5回年次大会で発表した際に、英詩指導の授業を評価していただくと共に励ましの言葉を掛けていただき、その後もご指導いただいている東京大学名誉教授行方昭夫先生に心より感謝申し上げます。

付 記

本稿は2019年5月25日に開催された JAAL-in-JACET 企画第1回授業学研究大会（於：東洋大学白山キャンパス）で筆者がおこなった「2つの大学での英詩入門授業の試み」と題する実践報告の内容に基づき、加筆、修正をおこなったものである。「ワークショップ」の授業のデータに関しては、引用文献中の実践報告論文「教養課程の英語クラスでの映画を使用した英詩指導の試み」から転記させていただいた。

引用及び参考文献

- ウォーク製作 (2006) 『英詩紀行』 双日株式会社。
小林章夫 (2007) 『イギリスの詩を読んでみよう』 NHK出版。
松浦暢編著 (2003) 『英詩と映画』 アーツアンドクラフツ。
松浦暢編著 (2004) 『映画で英詩入門』 平凡社。
森永弘司 (2006) 「英詩が登場する映画を活用しての授業」 日本英語教育学会。

2006年度夏期研究発表会.

森永弘司 (2007) 「教室に英詩を——映画を利用した英詩指導の試み——」 全国英語教育学会第33回全国大会.

森永弘司 (2008) 「英詩が登場する映画を通じて学生の恋愛観を探る」 映画英語教育学会第14回全国大会.

森永弘司 (2009) 「映画を通して英詩を教える授業の試み——三年間の授業実践を振り返って——」 日英言語文化学会第5回年次大会.

森永弘司 (2010) 「教養課程の英語クラスでの映画を使用した英詩指導の試み」 『日英言語文化研究』 第2号, 33-42.

森永弘司 (2019) 「2つの大学での英詩入門授業の試み」 JAAL-in-JACET 企画第1回授業学研究大会.

Zitowitz, P. et al (2005) "*The Poetry of Film*" Tokyo, Japan: Kinseido.